

# 町づくりの姿勢を問う

## 笑顔あふれる町づくりに努めます

**問** 町長が考える町の未来像を伺う。

**答弁** 齋藤町長

「笑顔あふれる郷土が町の未来像であります。」

「町民が暮らしやすい

さを実感し、町への愛着や幸せを感じることが出来るまち」を実現するために、「過去から未来への継承」「町民とともにつくる郷土の創造」「生まれて良かった」と誇れるまちへの進化」を柱として取り組みます。

**問** 国道周辺、南幹線周辺、旧街中周辺は、どのようなまちが理想と考えるか。

**答弁** 荒井政策財務課長  
国道周辺は、広域交通軸と位置づけ、商業施設、流通業務施設や

沿道サービス施設の立地を図ります。

南幹線周辺は、都市

交通軸と位置づけ、医療・福祉関連施設や、

教育施設、商業施設な

どの地区の生活利便に関するサービス施設の立地誘導を図ります。

**問** 今後の箱物建設の計画と進め方を問う。

**答弁** 荒井政策財務課長  
役場本庁舎を優先し若宮コミュニティセンター、体育館を計画し財政の健全化と整合性を図り進めます。

## 教育行政のあり方と考え方について問う

### 指針を継承しつつ改革に取り組みます

**問** 教育指針は継承か、

又は、新たな改革を考

えているのか問う。

**答弁** 鈴木教育長

幼小中教育指針は、継続します。

新たな改革は、ICT環境の整備と推進、

図書館教育の充実、外

国語教育の充実につい

て現況の把握と改善を図ります。

**問** 理想の部活動はど

うあるべきか問う。

**答弁** 舟木教育課長

心身の健全な発達、

人間関係を学ぶ重要な活動であり、健康や安全に留意した活動が理想であると考えます。

**問** 部活動における教員の負担軽減にどう取り組むのか。

**答弁** 村山生活課長

喫煙対策・塩分摂取の抑制、肥満の予防に

力を入れます。

### これも質問

**問** 町民の健康意識改革について

**答弁** 村山生活課長

喫煙対策・塩分摂取の抑制、肥満の予防に力を入れます。



三橋 薫 議員



地区大会 陸上リレー

ICT (Information and Communication Technology) とは、情報通信技術の略。情報処理や通信に関する技術、産業、設備、サービスなどの総称。

# 町民の描こうとする町の姿とは

## 「笑顔あふれる郷土」であります



横山 智代 議員

**問** 厳しい財政状況の元、町長の描こうとする町の姿とは。

**答弁** 齋藤町長

暮らしやすさを実感し、町への愛着や日常の幸せを感じることが出来る「笑顔あふれる郷土」であります。人口減少・少子高齢化への対応、快適な生活環境の整備、財政の健全化などの課題に、真正面から取り組んでまいります。町の財政状況は、人口減少などによる町税の減少、普通交付税の減少、高齢化の進行等による扶助費な

どの経常的経費の増加など、財政の健全化が急務であります。国・県補助金をはじめとした特定財源の活用、事務事業等の再編・整理、廃止・統合、効率化に取り組みとともに委託事業等を見直し、人口が減少しても疲弊しない持続可能なまちづくり、住民が活力と生きがいを持って暮らせるまちづくりなど、一つの一つの目標に向けた多角的な取り組みを進め、実現してまいります。

合意形成を図る必要があるのではないかと。 **答弁** 荒井政策財務課長

庁舎建設のような大事業は、多大な財政負担を負うことになり、起債の償還など後世に負担を残すことになりました。そのため、今後町全体の事業を詳細に予測し、綿密な財政シミュレーションを行う必要があります。全庁的な事務事業の見直しと財政シミュレーションを十分検討し、広く町民へ周知・説明を行い、合意形成を図って参ります。

庁舎建設についての住民への十分な説明、

## 子育て世代の応援として「学校給食」の一部助成を 食材以外の費用を町が負担しています



楽しい学校給食

**問** 子育て世代の応援として「学校給食」の一部助成は可能か。

**答弁** 舟木教育課長

近隣市町村では、柳津・三島町が1/2補助、金山・下郷町は全額負担。喜多方市も負担実施の見込みです。本町は調理や運搬等、給食センター運営費用を町が負担し、食材費は保護者負担としております。



# 当町存続のために、 町ではどの分野に力を入れていくのか

## PFIやクラウドファンディングなど他の財源を研究します



佐藤 宗太 議員

**問** 町の存続の為に町ではどのような分野に力を入れていくのか。

**答** 齋藤町長

町の存続とは町が財政破綻に陥ることなく、健全な行財政運営を継続することと考えます。直面する危機的な財政状況を克服し、早期に財政健全化を果たす必要があります。

従来の手法では立ち行かない社会の変化もあり事務事業の効率化、委託事業の精査等は勿論、経営としての視点も重視しながら、限りある資源の有効活用やPFIやクラウドファンディングなど他の財源を利用する手法も研究するなど、社会変化に適応した自治体経営

**PFI (Private Finance Initiative)** とは、民間資本主導の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用する手法のこと。

**クラウドファンディング (crowdfunding)** とは、crowd(群衆)とfunding(資金調達)を組み合わせた造語。特定の目的に必要な資金をインターネットを通じて、不特定多数に協力を募り、目的達成に必要な資金を集める資金調達方法のこと。

**問** 新庁舎建設により財政はどうなるのか。

**答** 荒井政策財務課長

起債額の増加により、建設完了年度に将来負担比率がピークを迎え、その後、起債の償還が開始されると実質公債費比率も高くなると考えられます。

## 労働人口減少への対応は

外国人を含めた幅広い人材の確保に努めてまいります

**問** 外国人籍の人口推移は。

**答** 村山生活課長

平成25年から平成28年までは世帯数が35世帯前後、人口約60人程度で推移していたものが、平成29年4月1日現在で79世帯107人、平成30年4月1日現在では132世帯164人、6月1日現在になると161世帯、191人と急激に増加し、町の人口に占める割合も1.2%となっております。国籍別ではネパール人が59人と最も多く、次にベトナム人が54人、カンボジア人が33人となっております。

**問** 課題とその対応は。

**答** 板橋産業課長

外国人労働者が増加している背景としまし



町に暮らす在日外国人との交流 (日本語教室)

ては、少子高齢化や人口減少等の社会的要因による生産年齢人口の減少と合わせて、進学希望者の増加に伴う職種に対する指向の変化により、製造業への就労が減少したことが要因と考えられ、外国人に頼らざるを得ないのが現状だと考えております。

外国人労働者は就労している期間は町内で生活する町民であるため、その経済活動は地域の活性化にもつながっているものと認識しております。



小畑 博司 議員

# 安心して暮らせる町になるか

## 今後とも持続可能なまちづくりをしてまいります

**問** 採用氷河期などと言われている今日、人材確保について、どのような方策を考えているか。

**答弁** 齋藤町長  
公務員の受験者数は全国的に減少傾向にあります。  
また、職種によっては民間企業や他市町村と競合する場合もあり、人員の確保が難しくなってきております。地元出身者や、地元高校などを中心に幅広くPRし、人材の確保を図ってまいります。

**問** 今の財政状況では新庁舎建設を再考すべきではないか。

**答弁** 荒井政策財務課長  
厳しい財政状況の中、「市町村役場機能緊急保全事業」の活用を前提に事務事業を進めておりますが、大変厳しいスケジュールとなっており、全体的な事務事業の見直しとともに、新庁舎建設を行った場合のシミュレーションを策定し、今後の方向性を明確にしてまいります。



町民体育館の除却決定により解体費も財政を圧迫

## 町民体育館利用者の利便をどう考える 小中学校の体育館の利用をお願いします。

**問** 町民体育館が使用不能となった今、利用者の利便をどのようにはかるか。

**答弁** 舟木教育課長  
町民体育館は築後50年を経過しており、急激な老朽化により利用者の安全が確保できないことから、使用を中止いたしました。  
今後は、各種団体に大変に不便をお掛け致しますが、小・中学校の体育館などをご利用いただくようお願いしております。

### これも質問

**問** JAがモミ運搬事業を来年からやめることだが、農業者への支援策が必要ではないか。

**答弁** 板橋産業課長  
JAへ事業の継続を、農業者の意見としてお伝えします。